

無痛分娩を 受けられる方へ

中川産科婦人科の
チーム医療による
無痛分娩の
ご案内です



硬膜外麻酔による無痛分娩

1 無痛分娩の良い点

- I 痛みがなく分娩中の体力を温存することが可能です。
- II 産婦人科医と助産師・看護師に麻酔科医が加わり、チーム医療で分娩の介助を行います。
- III 分娩経過中に急に帝王切開が必要となった場合の手術麻酔の対応や、分娩後に出血が持続し、血圧などが不安定になった場合などにも対応します。



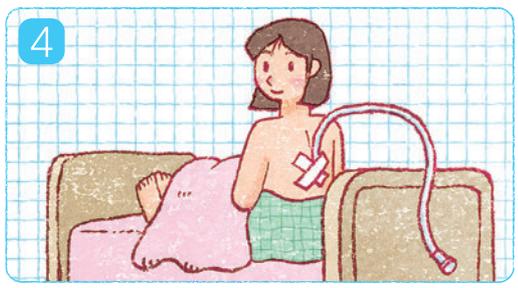
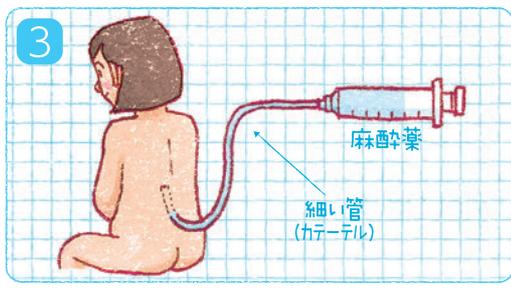
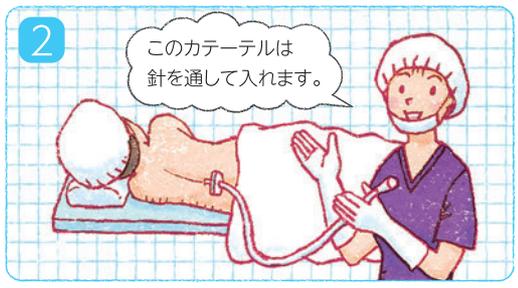
麻酔科医の仕事とは

- 手術の麻酔
- ペインクリニック
- 集中治療や救急医療
- 緩和医療

手術の麻酔の中で無痛分娩や帝王切開など妊婦さんの麻酔にたずさわるのが産科麻酔科医です。無痛分娩の麻酔によって陣痛の痛みを和らげて快適なお産を提供するだけでなく、お産の急変時にも速やかな母児の対応に務めております。

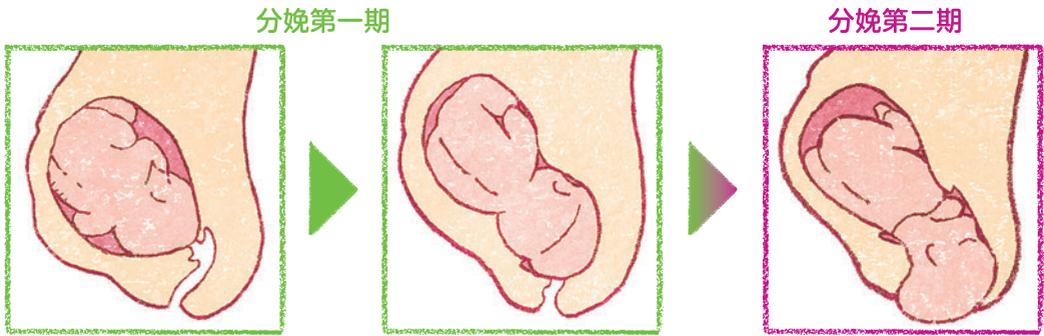
2 硬膜外麻酔の方法

前日に入院していただき背中に硬膜外カテーテルを入れます。その手順は、**1** まずベッドの上で横になり、背中を丸くします。そして腰のあたりに痛み止めの注射をします。**2** 針を刺して細い管(カテーテル)を入れます。**3** カテーテルが背中に入れば針を抜きます。**4** そのカテーテルを使い無痛分娩を始めていきます。

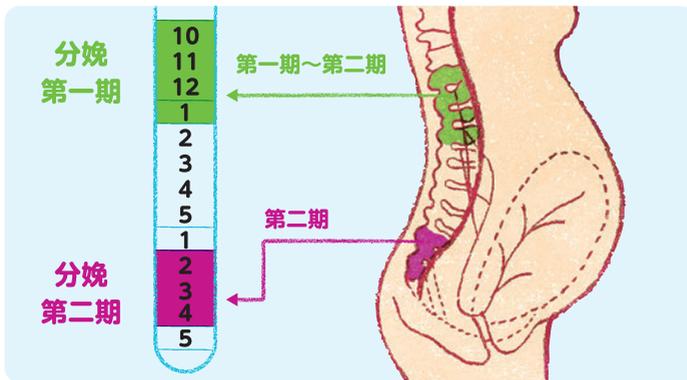


3

無痛分娩の麻酔を始める時期



産痛の神経支配



麻酔薬の注入は翌日痛みが強くなりはじめた時点で開始します。

陣痛が5分間隔で、子宮口が3~5センチ開大した頃に始めることが多いです。

痛みの程度の表し方



4

分娩中の過ごし方

- 麻酔中は絶飲食で点滴を行います。お水とお茶は飲んでも良いです。
- ベッド上では若干背もたれを上げていただきますが、ご自由にお過ごしください。
- 歩行はできません。トイレはベッド上で導尿します。
- 定期的に血圧測定・麻酔範囲のチェック・内診などの診察をします。
- ご家族の立ち会いも可能です。



5

起こりうる問題点

※麻酔科医による管理が必要です

- 低血圧
- 頭痛
- 発熱
- かゆみ
- 吸引分娩になる可能性が若干高まる
- カテーテルの入れ替えが必要になることがある
- 腰痛・下肢の神経障害・異常感覚
- 局所麻酔薬の血管内誤注入による局所麻酔薬中毒・痙攣
- 局所麻酔薬のくも膜下誤注入による広範囲な麻酔効果
- 硬膜外血腫・硬膜外腫瘍
- その他

6

硬膜外麻酔による無痛分娩ができない方

- 産婦の拒否や了承が得られない場合
- 硬膜外麻酔穿刺部位の感染
- 敗血症
- 脊椎の手術の既往や変形など背骨の疾患のある方
- 血が止まりにくくなる薬(抗凝固薬)を服用していたり、血小板の数が少ないなど血液の凝固機能に異常がある方
- 不安定な循環動態
- その他

7

緊急無痛分娩の対応

妊娠経過中に無痛分娩を希望されていなかった方で、陣痛が始まってから急きょ無痛分娩を希望された場合には、諸検査・無痛分娩の説明・無痛分娩の準備・人員の配置など、安全性を考慮して対応が出来ないことがあります。

8

予定計画分娩日以外での無痛分娩の対応

夜間・休業日・祝日は無痛分娩を行うための準備及び、人員の配置など、安全性を考慮して対応が出来ないことがあります。



NAKAGAWA CLINIC
中川産科婦人科

〒730-0802 広島市中区本川町2-1-16
TEL.082-231-2832
<http://www.nakagawa.or.jp/>